

Daily Report (号外)

～FRBが新たな資金供給策を発表～

概要

FRB(米連邦準備制度理事会)は9日、新型コロナウイルスの感染拡大に対応した経済支援策として、地方政府のほか、中小企業を含む一般企業に最大2兆3000億ドルを供給する措置を発表しました。

【支援策の概要】

- ① 企業支援では従業員数が1万人以下、もしくは売上高が25億ドル以下の企業に対し、民間銀行を通して合計で最大6,000億ドルの融資を実施
- ② 地方政府支援には最大5,000億ドルを振り向け、償還期限が最長で2年の地方債をFRBが直接購入。対象は、各州政府とコロンビア特別区(米国の首都圏)のほか、人口200万人以上の郡と人口100万人以上の市
- ③ 主として資本市場を通じた資金供給の仕組みである特別目的事業体(SPV)を使い、社債などを8,500億ドル分購入

今回、FRBは投資不適格級に格下げされた社債の一部やローン担保証券(CLO)、商業不動産ローン担保証券(CMBS)の一部といった証券も買い取り対象としました。FRBは2008年の金融危機時も企業金融に踏み込んでおり、その際購入対象は償還期間が短く格付けの高いコマーシャルペーパー(CP)に留まっていたですが、今回は償還期間が最大5年の社債や低格付け債にも資金供給します。

パウエル議長は「信用の流れを支援するためにFRBが実施している対策の多くは緊急融資権限に依存するものだ。米国が確実に回復軌道に乗ったと確信できるまで、FRBはこうした権限を力強く、かつ積極的、野心的に利用していく」と述べました。

ユーロ圏では9日夜、ユーロ圏の財務相が新型コロナウイルス拡大の悪影響を和らげるため、5,400億ユーロ規模の経済対策で合意しました。

ユーロ圏の財政・金融の安定化を目的とした基金である「欧州安定メカニズム(ESM)」を活用するほか、雇用や中小企業のための安全網を設けます。一方、ユーロ圏の債務を共通にする「コロナ債」は、新型コロナウイルスの感染拡大により大きな影響を受ける南欧などの経済再建を目的とした資金調達手段として議論されてきましたが、ドイツなどが反対し閣僚レベルでの合意は見送り、首脳間で協議することになりました。

今回の経済対策での合意では、各国は国内総生産(GDP)の2%(総額で約2,400億ユーロ)に当たる額の予備的な信用枠を用いた借入を申請でき、必要な場合はESMがその国の国債購入などを通じて支援します。このほか、域内の雇用維持に向けた臨時基金の設置や、中小企業の資金繰り支援に広範な公的保証をつける仕組みでも合意しました。

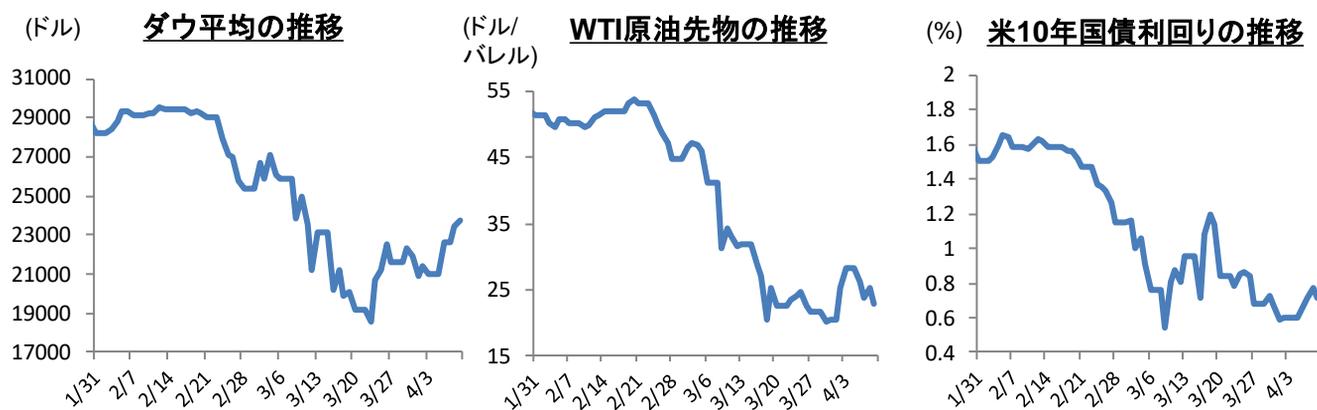
市場の反応

FRBが発表した総額2兆3,000億ドルの緊急措置を好感し、9日の米株式市場は続伸、ダウ工業株30種平均は前日比285ドル80セント高(+1.22%)の2万3,719ドル37セントで終わりました。ナスダック総合株価指数は同62.67ポイント高(+0.77%)の8,153.58で終わりました。またS&P500指数は同39.84ポイント高(+1.45%)の2789.82で終え、週間では1974年以来の大幅上昇となりました。

(次のページへ)

WTI(ウエスト・テキサス・インターミディエート)5月限は、前日比2.33ドル安(-9.3%)の1バレル22.76ドルで取引を終えました。9日に開かれた石油輸出国機構(OPEC)とロシアなど非加盟の主要産油国で構成する「OPECプラス」の緊急テレビ会議にて、5月から日量1000万バレルを協調して減産するとの観測が浮上しましたが、新型コロナウイルス拡大で予想される需要減少への対応としては不十分と受けとめられました。

米国長期債相場は小幅上昇し、10年国債利回りは前日比0.05%低下の0.72%で取引を終えました。外国為替市場では、米国の週間新規失業保険申請件数が2週連続で600万件を上回る中、FRBが緊急支援策を打ち出したことで、安全通貨としてのドル需要の逼迫が緩和され、前日比34銭円高・ドル安の1ドル=108円45~55銭で取引を終えました。



(期間)2020/1/31~2020/4/10、(出所)Bloomberg

評価及び今後の見通し

今回、上述の通りFRBは投資不適格級に格下げされた社債の一部やローン担保証券(CLO)、商業不動産ローン担保証券(CMBS)の一部まで買い取りする政策を発表したことは、新型コロナウイルス感染拡大後に大幅に値崩れしていたこれらの資産に対する市場の不安を鎮める好材料になると評価しています。

今週の米国株式の大幅上昇は、米国カリフォルニア州を含む新型コロナウイルス感染が深刻な一部地域で死亡者数に鈍化が見られ始めたことが好感された影響が大きいと見ています。しかし、事態収束までの道のりは未だ不透明感が強く、今後は今般の景気失速が顕著に反映された景気指標の発表も続くことから、当面はトピックに対する一喜一憂が繰り返される不安定な展開を予想しています。一方で足もとでは中国や欧州の一部では感染拡大ペースの鈍化を受けて移動制限等の厳しい措置を緩和する動きが出てきています。

今後、感染拡大の収束が見通せるような局面になり経済活動を制限する措置が世界的に緩和される局面に向かえば、過去分の経済指標はバックミラーと解され、かつてないほどの大規模な経済対策による先行きへの期待感から、市場センチメントは好転に向かうと予想します。